

私の住む埼玉県比企郡ひきぐんときがわ町は、町の面積のおよそ7割を山林が占め、古くからスギやヒノキを中心とした林業が盛んな土地柄です。私も祖父の代からずっと、地元の山主さんが所有する山林で造林手を勤めてきました。

62年ほど前、私が中学を卒業して山の仕事を始めた頃、林業は隆盛を極めていました。当時、1町歩ちよふぶ(約1ha)の山林の木を売ると、山主さん一家が2〜3年は裕福に生活することができたといえます。私の雇い主と

たことはありません。

伐り出せるようになるまで50年以上にわたって木を育てる仕事には、長い経験を積むことが求められます。一人前になるまでも、まず10〜15年はかかるでしょうか。一人前だと認められた後も、教わったことを基に研究と努力を積み重ねていかないと、優れた製品になる木は育てられません。芯が通って、節のない木を育てるためには、枝打ちや間伐の時期・方法など、木の生育状況や地形、日当たりなどを踏まえた作業が求められ

いく鉋は10丁作って1〜2丁といったところでしたが、それでも気に入った道具を使う作業は何とも気持ちのいいものでした。

いま、山林を守り育てるためには、ボランティアの方々の力が欠かせません。大勢の方ができることをやってもらえれば、荒れてしまった山も昔の美しい姿を取り戻せるのではないかと期待しています。山は人間にとって大切な宝物。きれいな空気と水は常に人を癒やしてくれます。この水と空気を作り出している木々を育てる仕事には、苦勞のしがい

## 緑のエッセイ



●プロフィール  
昭和12年生まれ(75歳)。  
中学卒業後、祖父の代から続く造林業に就き、以来、現在に至るまで地元の山主が所有する森林の管理を行う。永年の経験で得た森林管理の技の中でも、とくに自ら工夫した鉋を使用する枝打ちに定評があり、さまざまな育林コンクール等で優秀な成績をおさめている。  
平成20年、公益社団法人国土緑化推進機構により、「森の名手・名人」森づくり部門の造林手の認定を受ける。

なった山主さん達は、そんな山林を180〜300町歩も持っていましたから、その勢いは大変なものです。山林の手入れも、専属の造林手が4〜5人がかりで行っていて、多くの私有林が十分に手入れされていない今から考えると隔世の感があります。

私が仕事に就いた頃は、研修や学校で作業を習うのではなく、全て先輩の仕事を見て覚えることが当たり前でした。しかし、刃物を使う仕事だけは別で、厳しく教えられました。おかげで現在まで一度も大きな怪我をし

ます。

私の場合、最も自信をもって取り組んだのは枝打ち。(ちなみに現在は全ての作業を枝打ちといいますが、昔は樹高2m以下の枝打ちは「ネアゲ」と呼んでいました。)木の枝が枯れないうちにきちんと枝打ちをしてやれば、質の良い木を育てることができます。とくに道具の鉋たがにはこだわり、鍛冶屋さんに注文をつけ、火入れを強くした刃の硬い、切れ味の良い鉋を特別に作ってもらっていました。硬い刃は欠けやすいという欠点があり、得心の

あります。けれども、山での作業には多くの危険が伴います。山や森に興味を持ってくださったボランティアの人たちが、山の仕事の楽しさを知り、安全に作業ができるよう、指導者の方々には、かつて私が仕事を習った先輩たちのように時には厳しい指導をお願いし

ます。私も先人から受け継いだ美しい山林と、山林を育てる技術を少しでも後世に残すため、できるだけのことをしていきたいと思